

コロナ禍の子どもたちの声 子ども食堂と学習支援にできること

秋山妙

論文要旨

本稿は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって様々な影響がある中、学校が長期間休みとなった子どもたちの声に焦点を置いた。子どもたちの声を知ったことで得られたいくつかの問題点から、子ども食堂や学習支援にできる支援を探求することを目的としたものである。

現在の日本では、7人に1人の子どもが貧困状態である。2008年から日本の子どもの貧困がメディアで取り上げられるようになり、様々な対策や支援が取られるようになった。子ども食堂や学習支援はそれらの支援のひとつである。全国でそれらの取り組みは浸透しつつあり、各地で実施されるようになった。

しかし、2020年は新型コロナウイルスが日本でも拡大し現在も猛威を振っている。それにより、3月から小学校、中学校、高校が一斉休校となり、さらに子ども食堂や学習支援、図書館、公園の遊具も使えなくなるなど様々な影響が及んだ。そこでセーブ・ザ・チルドレン、特定非営利活動法人チャイルドライン支援センターが子どもたちの状況を把握するために緊急でアンケート調査をした。そこから得られた子どもたちの声は、半数以上がネガティブ感情を抱いていたことが明らかになった。感染のリスクや学力の低下、自分自身の悩みなど様々なストレスが生まれていた。また、中日新聞の記事から図書館の利用制限や不登校・いじめの問題を取り上げた。

それらの子どもたちの声や問題から、子ども食堂と学習支援にできる支援は何か改めて考察した。私自身が実際に経験したボランティア活動の記録をもとに、バランスの良い食事、物資支援、遊び・体験、無料の学習支援、気軽に話せる大人の存在・居場所の提供の5つの取り組みをまとめた。新型コロナウイルスの影響で様々なことがリモートで行われるようになり、便利さを感じたことも多い。しかし、子どもの支援は非対面では難しい。対面によって人の温かさや優しさを感じられる。子ども食堂の開催は難しい状況ではあるが、フードパントリーやお弁当を配布して支援は継続している。子ども食堂の運営者の方々は支援を継続するためにご尽力されている。これまで以上に行政や学校、地域住民との協力が今後必要であると感じた。

1. 子どもの貧困

平成28年の時点で日本の子どもの相対的貧困率¹は13.9%、日本の子どもの約7人に1人(約280万人)が貧困状態にある。貧困率算定のベースとなる貧困ラインは、親と子1人ずつのひとり親世帯(2人世帯)に換算すると、177万円未満/年、月額約14~15万円での生

¹ 厚生労働省, 2017年, 「平成28年国民生活基礎調査の概況 II 各種世帯の所得等の状況 6 貧困率の状況」

(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa16/d1/03.pdf>, 2020年12月19日にアクセス)。

活となり、修学旅行に行くのも難しく、学びたくても塾に行くこともできない²。

また、2011年のユニセフの統計による子どもの貧困率の国際比較では、日本は2000年代半ばにおいて先進35カ国の中で上から9番目の高さにある。日本の子どもの貧困率はアメリカに比べると低い、アイスランドやフィンランド、ドイツ、フランスなどと比べると高い。日本はひとり親世帯の大半を占める母子世帯の貧困率が特に高い。日本のひとり親世帯に育つ子どもの貧困率は58.7%と、OECD諸国の中で最も悪い。母子世帯の貧困率は50%以上、父子世帯の貧困率は30%となっている。子どもの数では、子どもが1人いる世帯と2人いる世帯においてはほとんど差がないが、3人以上になると貧困率が20%となり家計が一気に苦しくなっている現状である。

日本の子どもが貧困なのか、海外だけの話ではないのかと疑問を抱く人もまだ多いかもしれない。日本で子どもの貧困が世間であまり認知されていない理由は、問題視され始めたのが数年前であるからである。注目したいのが2008年の出来事である。2008年は、日本の社会政策学者の間で「子どもの貧困元年」といわれる年である。この年に初めて、日本で子どもの貧困がマスメディアや政策議論の机上にのったのである。つまり、日本の子どもの貧困が発見された年である。その後、次々とそれに関する書籍が発売されたり、テレビで取り上げられたりされた。2013年には「子どもの貧困対策の推進に関する法律（通称：子どもの貧困対策法）」が可決された。そして日本で子どもの貧困が徐々に関心を集め、現在では子ども食堂を始めとする様々な活動が地域で行われている。

2. 子どもたちへの支援

子どもたちへの支援は様々ある。日本では低所得世帯に給食費や学用品費などを国と自治体が支援する就学援助や児童手当、生活保護などの給付がある。子どもに直接支援が届くわけではないが、「生活苦」という家庭における金銭的なストレスを緩和することができる。貧困世帯に発生する家庭内の問題の多くは、金銭的なストレスに起因する。母親のストレスは、胎児の時点から子どもに影響する。現金給付によって親の金銭的な負担が少しでも軽減されれば、家族との時間を有効的に使うことができる。「家族を大切にする」という観点からも賢明な政策のひとつだといえる。

現金給付のメリットを上記で述べたが、もうひとつ現物（サービス）給付というものがある。子どもたちへの支援として保育、医療セーフティネットの強化、子どもの生活の支援・「居場所」の確保、子どもの就労支援など多岐にわたる。現金給付のように金銭的な面で支援することはできない。しかし、これらはスティグマを発生させるようなあからさまな選別的制度ではなく、一見普遍的な制度として設計されながらもしっかりと貧困層がカバーされている。また、子どもに直接支援が届く観点から虐待の早期発見や心身の健康状態のチェックがしやすいことが期待されている。下記では、それらの現物給付の中でも特に重要だと感じた子ども食堂と学習支援について紹介している。

2.1 子ども食堂

² 一般社団法人全国子どもの貧困・教育支援団体協議会、2017年、「子どもの現状」(<https://www.kyoikushien.net>, 2020年6月30日にアクセス)。

子ども食堂³は、2012年に東京都大田区から始まった。人々の共感と関心を集め、2019年6月時点で全国に3,718か所存在する。2016年は319か所であったため、3年間で約12倍も増加した。また愛知県では、2020年11月時点で175か所、そのうち名古屋市で62か所存在する。子どもや地域住民が利用しやすい地域共生社会のインフラ⁴に近づいている。子ども食堂がこれほどまで増加した理由は主に2つある。

1つ目は、子どもの貧困が問題視され始めた「子どもの貧困元年」後、政府が2009年に初めて相対的貧困率（世帯所得が標準的所得の半分以下の割合）を公表したことである。それにより、表面上には見えない貧困の存在が社会的に認知されるようになった。もう1つの理由は、子どもの貧困層が増加していることが挙げられる。子どもの貧困世帯はひとり親の家庭が半数を占めており、孤食も併せて問題として取り上げられるようになった。メディアを通じて子どもの貧困が広く知られるようになり、世間の関心を集めた。子ども食堂の存在を知り、新たに運営したいと思う人も増加している。

次に、2019年時点での子ども食堂の運営状況を紹介する。子ども食堂の多くは子どもの場合、無料で利用できることが多い。有料の場合でも100円から300円という料金が大半なため、金銭的に利用しやすい。大人も利用できることが多いが有料の場合がほとんどである。開催回数は、月1回のところが多い。人員や食材、場所の確保の問題があるため、月1回以上開催するのは困難な状況である。曜日は、土曜日や日曜日が多かった。利用できる時間は、平日の場合だと17時から20時頃、土曜・日曜の場合は12時から14時頃が多かった。1回あたりの子どもの人数の平均は、24.9人、大人の平均人数は15.5人であった。子ども食堂の形態は地域によって様々で、活動目的も異なる。そのため、子ども食堂の明確な定義は存在しない。実際の対象者は各子ども食堂で異なり、誰でも来て良いところは全体の6割以上であった。一方、子どもだけを対象者にしているところは全体の約3割ほどであった。生活困窮者の子どもに限ると1割にしか満たなかった。これらのことから、子どもの貧困や孤食に対する問題は、支援を必要とする人だけに限って支援を行うのは難しい現状である。しかし、誰もが利用できる子ども食堂は“貧困”というスティグマを発生させない優しい取り組みである。そして地域の居場所の役割も持っている。

2.2 学習支援

学習支援⁵とは、子どもの貧困から高校進学を達成することで負の連鎖を打ち切ることを掲げ厚生労働省が始めた「寄り添い型学習支援事業」である。目的は主に4つある。まず1つ目は居場所づくりである。生徒が安心して集い、学習し、対話し、将来への希望を育む居場所をつくる。2つ目は高校進学である。生徒一人ひとりに丁寧な寄り添った支援をし、学習成果（成功体験）をあげることで、生徒の自己肯定感（自尊心）を育む。最終的には全員

³ NPOカタリバ、2017年、「子ども食堂の現状と課題」
(<https://www.katariba.or.jp/news/2017/11/02/9882/>, 2020年7月1日にアクセス)。

⁴ むすびえNPO法人全国子ども食堂支援センター、2019年、「むすびえおよび全国の地域ネットワーク共同調査」
(<https://musubie.org/news/993/>, 2020年7月1日にアクセス)。

⁵ NPO特定非営利活動法人教育支援協会東海、2018年、「学習支援事業の概要」
(<https://kyoikushien-tokai.org/ssp/>, 2020年5月1日にアクセス)。

高校進学を達成する。3つ目は社会性の育成である。挨拶、意欲、自立心、協調性、忍耐力など社会生活に必要な非認知能力を育む。4つ目は養育支援である。保護者と良好な関係を築き、適宜養育支援を行う。

以上の4つのことを目的に日々活動している。学習塾ではないため学習内容や方法は決まっておらず、生徒たちが自主的にやりたいことに取り組んでいる。サポーターたちは子どもたち一人ひとりに丁寧に寄り添い、信頼関係を築くことを大切にしている。サポーターは大学生が中心となり、子どもたちの学習をサポートしている。

3. コロナ禍の子どもたちの声を知る目的と方法

新型コロナウイルス感染症の拡大によって様々な影響がある中で、子どもたちが影響を受けたことのひとつに教育の機会があげられる。感染が全国的に広まった2020年3月から2020年5月までの約3か月間、休校により自宅での学習を余儀なくされ、通常の学校生活が送れない事態に陥った。公共の施設ではコミュニティセンターや図書館が閉鎖したり、公園の遊具が使えなくなったりするなど様々な規制が施された。また、長期間の休み明けから学校へ登校するのが辛いと感じる子どもたちも多くいる現状を新聞での記事で知った。子どもたちの環境があまりに変わってしまい、体力的にも精神的にも影響が及んでいると考えられる。

以上の問題関心から、コロナ禍の子どもたちがどのような思いを抱えているのか子どもたちの「声」を知りたいと思い、このテーマに取り組んだ。子どもたちに大きな影響を及ぼしている問題に着目し、心の負担を少しでも軽減するためにできることを探求したい。そして、これまでにボランティアとして関わってきた子ども食堂や学習支援と照らし合わせて考えを深めたい。

調査方法は、特定非営利活動法人チャイルドライン支援センターが2020年2月28日から2020年4月30日に実施した調査、セーブ・ザ・チルドレンが2020年3月17日から2020年3月31日に実施した全国の小学生から18歳くらいまでの子どもたちを対象とした緊急アンケートを参考にして特徴や傾向を分析した。また、新聞記事から関心を得たことも取り上げた。それらから分かったことをもとに今の子ども食堂と学習支援にできること・必要な取り組みを考察した。

4. コロナ禍の子どもたちの声

4.1 特定非営利活動法人チャイルドライン支援センターの調査結果

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター⁶が2020年2月28日から2020年4月30日までに収集した調査結果を利用した。集計数は合計730件である（特定非営利活動法人チャイルドライン支援センターにアクセスした記録のうち、新型コロナウイルスに関連

⁶ 特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

2020年5月26日、『資料1「新型コロナウイルス感染症」に関連した子どもの声【事例】』。

2020年5月27日、『資料2「新型コロナウイルス感染症」に関連した子どもの声【データ・速報】』。

したもの(集計されている)。表1の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う主な対策と子どもたちの声は、特定非営利活動法人チャイルドライン支援センターの調査結果をもとに作成したものである。

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センターは、子どもの気持ちに耳を傾け、心の居場所となる活動をしている。問題の解決は目的としておらず、「傾聴」を大切にしている。電話相談やオンラインチャット相談をして、子どもたちに日々寄り添っている。

表1 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う主な対策と子どもたちの声

政府・自治体が行った新型コロナウイルス感染症拡大に伴う主な対応	子どもたちの声
2月28日 休校要請	<ul style="list-style-type: none"> ・休みになって将来のことを考えてしまう ・受験前に休校になって不安になる時間が増えた ・友だちと会えなくなってしまった ・時間がたくさんあるけど何をやっていいのかわからない ・突然の休校で目標を失ってしまった ・勉強が手につかない ・将来が不安になる ・コロナのことが不安で何もできない
3月2日～ 要請を受け、全国約99%の学校が休校を開始 放課後児童クラブ(学童保育)や保育園は継続	
3月20日 休校解除方針表明	<ul style="list-style-type: none"> ・修了式で久しぶりに学校に行ったけれど、友だちとはあまり話せなかった
3月24日 東京オリンピック・パラリンピックの1年延期発表	<ul style="list-style-type: none"> ・芸能人が死んでしまったことがショック ・テレビで1日中コロナのことばかりやっている
3月25日 東京都による外出自粛要請	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に感染者が出た
4月7日 1都6府県に緊急事態宣言 入学式の縮小や休校の延長、学童保育・保育園の登園自粛も始まる	<ul style="list-style-type: none"> ・進学したが、うまくやっていけるか不安 ・新学期が始まったが学校がいつ始まるかわからないし、友だちができるか不安 ・自分は休みだけど母が仕事に出かけるので感染しないか心配 ・怖くて外に出られない ・生活のリズムが崩れてきた ・ゲームばかりしてしまう ・部活で大会を目指して頑張ってきたのに、なくなってしまうとすごく落ち込んでいる ・また学校が休みになって外に出られなくなった
4月16日 全国に緊急事態宣言 再び各地で休校措置、登園自粛などがとられる	

	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちができない ・親もコロナのことでイライラしている ・親がコロナのせいで仕事や生活のことを愚痴る ・親の仕事が休みになり、収入が減ってケンカしている
5月下旬～6月 人数制限や授業を短縮して学校再開 名古屋市の学習支援も再開	<ul style="list-style-type: none"> ・早く普通の生活に戻ってほしい ・いつまで続くのか ・友だちと遊べないし、話せない ・外出できないから考える事が増えた ・不安で色々考えてしまう ・親が自分のことを分かってくれない ・気持ちが不安定になっていて苦しい ・お母さんの家事の大変さとか、暇だったから今まで見えてなかったものが見えた

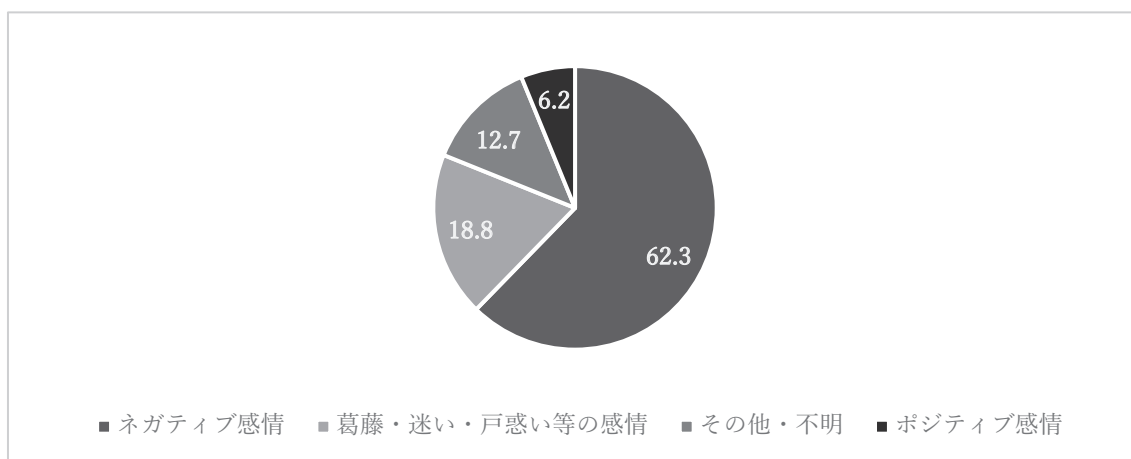


図1 コロナ禍の子どもたちの気持ちの分類

コロナ禍の子どもたちの声の流れを表した表1から、2月下旬の休校要請や3月2日から休校が開始した頃には不安、友だちと会えなくなった、目標を失ったなど今後どうなるのか分からない状況への不安の感情が生まれた。休校解除方針の表明や東京都への自粛要請が出た3月下旬頃には芸能人の死がショック、突然の修了式で友だちとの別れなど辛い出来事があった。緊急事態宣言が出された4月頃は感染の不安・怖さ、新学期への不安、家族内のストレスなどウイルスへの恐怖と新しい環境の変化で心の負担が増していたことが見受けられる。学校が再開し始めた5月下旬から6月頃には早く普通の生活に戻ってほしい、外出できず友達にも会えず不安を感じるなど長期の休校やウイルスとの闘いにより心身共に疲れをもたらせていたと思われる。

また図1のコロナ禍の子どもたちの気持ちの分類を表す円グラフから、全体の半数以上の子供たちがネガティブ感情を抱いていたことが分かった。次に多かったのが葛藤・迷

い・戸惑い等の感情である。一方、ポジティブ感情は全体の1割にも満たなかった。

これらのことから、全体的にコロナ禍の子どもたちはネガティブ感情を抱いていたことが分かった。学校が休みになったため友だちや学校での悩みは減少したが、反対に自分自身の悩みや不満を抱く子どもが多かった。この要因は、勉強や将来への不安が増えたためだと思われる。また長期間家にいることへのストレスや日常生活の乱れ、家族への不満なども増えたことも関係していると思われる。一方、プラスの面では家にいる時間が増えたことで親の仕事や家事の大変さなどを感じた子どももいた。

4.2 セーブ・ザ・チルドレンの調査結果

セーブ・ザ・チルドレン⁷が2020年3月17日から2020年3月31日までに収集した調査結果を利用した。集計数は1,422件である。対象は全国の小学生以上の子ども（18歳まで）である。子どもたちの言葉はあからさまな誤字・脱字以外はそのまま掲載している。

セーブ・ザ・チルドレンは、子どもの支援活動を行う民間・非営利の国際組織である。海外では保健・栄養、教育などの分野で活動するほか、自然災害や紛争における支援をしている。日本では、子どもの貧困の問題解決や虐待の予防に向けた事業、震災の復興支援を通して子どもの権利を実現する活動を行っている。子どもの権利のパイオニアとして、世界中で子どもたちを支援している。

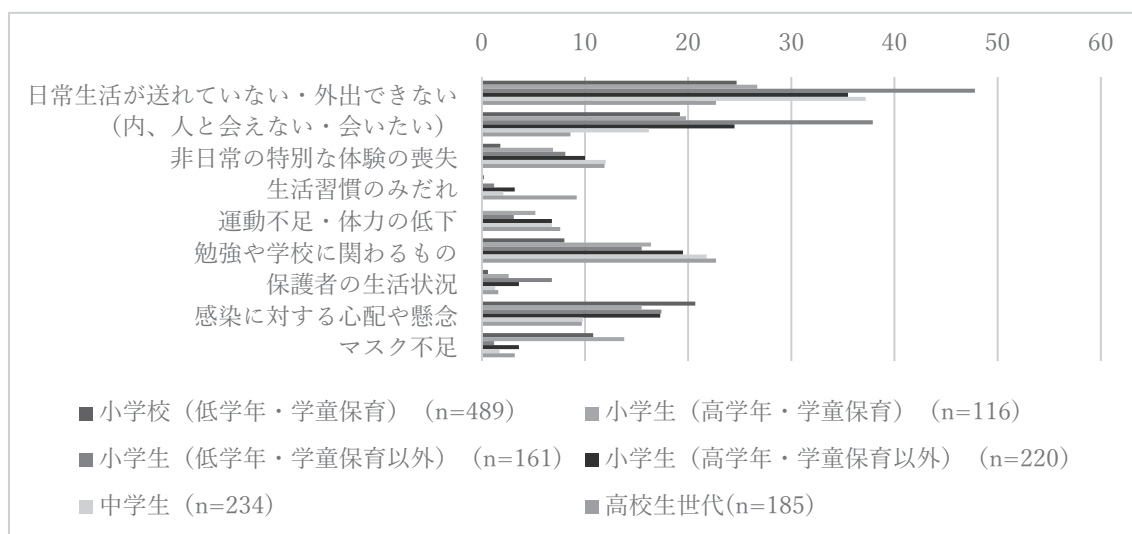


図2 コロナ禍で子どもたちが困っていること・心配なこと・気になっていること

<図2の回答の具体的な内容>

- ◆ 日常生活が送れていない・外出できない 446件 (31.4%)
 - ・外に出られないためストレスが溜まっている。テレビ、ゲーム以外やることがない。(小1・神奈川県)

⁷ 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン, 2020年5月3日
『「子どもの声・気持ちをきかせてください!」2020年春・緊急子どもアンケート結果(全国版報告書)』.

- ・給食がない。(小2・東京都)
- ・ともだちと遊びたいけど遊んでいいのか分からない。お母さんが仕事の時家にいない。(小2・兵庫県)
- ・友達と遊びたい。習い事に行きたい。(小2・福岡県)
- ・ともだちといっしょにぜんりよくであそびたい。(小3・神奈川県)
- ・ストレスがたまらないか心配。体力が落ちないか心配。外で遊んでいるときに、遊んでいることを怒られないか心配。学校の友達や先生に会えなくてさみしい。図書館などで本が借りられなくて困っている。友達としばらく会っていないので、学校が始まってから、友達とうまく付き合えるか心配。(小3・東京都)
- ・図書館が閉まっていて、本が借りられなくて困る。(小3・栃木県)
- ・外に遊びにいけないので、つまらないです。校庭を開放してほしいです。(小3・広島県)
- ・クラスや学年の友だちとドッチボールで遊べないのがさびしい。(小4・埼玉県)
- ・外に出て遊ぶとお年寄りに怒られる。(小6・東京都)
- ・学校を休校にして欲しくなかった。暇だった。最悪だった学校の先生もこの休校がいきなりで、全く賛成でないようでした。(小6・長野県)
- ・長い間楽しみにしていた部活動が全て無くなってしまい、家にいてもすることがなく、友達ともあまり会えないのですごく疲れています。(中1・神奈川県)

◆ 人と会えない・会いたい 291件 (20.5%)

- ・みんなといつ会えるのか心配です。(小1・兵庫県)
- ・友だちがこいしい。(小3・福島県)
- ・学童に通っていない友達と学校がないから会えなくて悲しい。(小4・福島県)
- ・友達と会う回数がとても少なくなって連絡があまりとれなくなってしまった。それが1番悩み。月に1度でもいいから友達と遊べる機会が欲しい。(小6・千葉県)
- ・卒業にも関わらず、友達と会えないことがさみしい。(小6・高知県)
- ・友達に会えなくて寂しい休校なんて楽しくない、楽しかったクラスがこんな形で終わるのがやだ。(中1・佐賀)
- ・家が遠い友達や先生と会えないこと。(中2・北海道)
- ・卒業シーズンに友達と会えなくなり寂しい気持ちでいっぱいです。(中3・長野県)
- ・友達と話す機会が減ってしまった。(高1・神奈川県)
- ・友達や先生と会えなくて寂しいです。(高2・埼玉県)

◆ 非日常の特別な体験の喪失 104件 (7.3%)

- ・こんな形で6年生と別れなくなかった。(小4・東京都)
- ・運動会はどうなるのですか？(小5・福島県)
- ・6年なので、卒業式の練習がほとんどできないまま、ぶっつけ本番で卒業式をしないといけなくなった。卒業までのお別れやスポーツ会、国立天文台へのバスで行く社会科見学も、なくなってしまった。(小6・東京都)
- ・吹奏楽部のコンクールに向けての練習ができない。(中1・神奈川県)
- ・5月にある修学旅行がどうなるのか。(中2・宮城県)

・卒業式までの行事(三年生を送る会、スポーツ大会、クラスお別れ会など)がなくなって、寂しい。(中3・神奈川県)

・卒業までの大事な時間を取られたのは残念。きちんと感謝を伝えられなかったから。(中3・長野県)

・卒業式が完全な形でできなかったのが残念です。練習時間も取れず、合唱等もきちんと仕上がっていませんでした。後輩との最後の交流の場もなくなり、同級生や先生と話す時間も思うように取れませんでした。このまま高校の入学式まで遅れてしまうかもしれないと思うととても心配です。(中3・宮城県)

◆ 生活習慣のみだれ 32件 (2.3%)

・遊びに行きたいけど子ども会のイベントなど無くなり、楽しみにしていたのに残念。夜おそくまで起きていてしまう。生活リズムが違う。(小2・宮城県)

・よるねむれない。(小2・佐賀県)

・よく昼寝をしてしまうので、生活リズムが崩れていくことが心配です。(小5・茨城県)

・やる事がなく遅寝遅起になったりと生活リズムが崩れた。(高1・北海道)

・朝起きれるか。(高2・福岡県)

・友達と会えないのでラインや電話で話ししていますが やはり朝学校に行く習慣があるため体内時計がおかしくなっています。(高2・大阪府)

・スマホを使う時間が増え、怠惰な生活をしてしまう。(高2・東京都)

・生活リズムが乱れて1日だるくてなにもできない、3食コンビニで飽きた、身体の調子が悪い、ラインでみんなイライラしてる気がしてだるい。コロナで休みになったときはうれしかったけど、1週間くらいでいつもよりだるくなってるなにもできなくなって困ってる。試験の勉強とかもできなくて、不登校になったらどうしようってこわくなってる。どうやって学校モードに戻すのかわからない。この1ヶ月近く、突然不安になって泣いたりすることが多くてしんどい。病気かも。でも、みんな心のコロナにかかっているってラインでいってるから、みんなもそうなのかも。(高2・北海道)

◆ 運動不足・体力の低下 56件 (3.9%)

・家だと体を動かすことが、あまりできない。(小2・東京都)

・外に出てあまり遊ばないので、運動不足になるのが心配です。(小3・神奈川県)

・学校が休みになって、体育がやれなくなったから、しっかり運動できるようにしたいです。(小4・福島県)

・運動不足で太ってしまう。(小6・宮城県)

・身体が鈍ってしまう。(中1・東京都)

・圧倒的運動不足。(中2・宮城県)

・ストレスがたまる。部活が停止になって、体力が落ちたり、技術が衰えそうで心配。なかなか時間をうまく使えず、生活習慣が乱れていくことが気になる。(高1・熊本県)

・部活ができないから運動したりない気がする。(高1・福島県)

・普通に外に遊びに行けなくなったし部活が出来なくて体力不足です。(高2・岩手県)

・体力と身体能力の低下。テレビやパソコンを一日中みて過ごすしかないなので、視力の低下

にもなる。一日中家に閉じこもっているのでストレス。(中3・神奈川県)

◆ 勉強ができない、学力の低下、学校のことなど学びに関わるもの 223 件 (15.7%)

- ・宿題をわからない時、どうしたらいいかわからない。(小2・京都府)
- ・学校からの宿題が国語と算数ばかり(理科や社会もやりたい)。(小3・愛知県)
- ・宿題が多すぎる。(小3・栃木県)
- ・3年生の終わらなかつた勉強はどうなるの？(小3・茨城県)
- ・宿題が多いし、土日も宿題をするのか分からなくてこまります。(小3・広島県)
- ・学力がだんだん下がっている。(小4・福島県)
- ・学校で五年のまだ教えてもらってない勉強がわからない。(小5・岡山県)
- ・勉強が追いつかなくなる。(小6・東京都)
- ・いつもは学校の先生が勉強を教えてくれたり、中学校にむけての準備なども教えてくれるけど、中学校に行く6年生にとっては、これからの中学校生活が計画的に出来るのかが心配です。いつもは宿題が1日ごとに計画してあるけど、学校が休みでまとめて沢山出されて、まだ教えてもらってなくてわからない問題があるけれど、昼間はお母さん達がいないので教えてもらえなくて困っている。(小6・宮崎県)
- ・1ヶ月間勉強ができなくなってきた。(中1・宮城県)
- ・期末テストが出来なかつたので成績が気になります。(中1・東京都)
- ・他の人はどんな家庭学習の方法をとっているのか。中学2年の復習を中心に家庭学習をしているが、それが良いのかどうなのかわからなく不安を感じる。(中2・宮城県)
- ・親が勉強しないからイライラしている。(中2・東京都)
- ・勉強をしなくなってしまった。(中3・長野県)
- ・勉強が捗らないこと。(高1・愛知県)
- ・受験に向けた活動ができていない。(高2・北海道)
- ・来年度は普通に学校生活を送れるのか心配。進路活動が始まるから気になっている。最近、頭が痛くなったりイライラしたり、ストレスだと実感している。リラックス方法を試したりして残りの休みを過ごしたい。(高2・岩手県)
- ・来年受験なので、勉強時間の差をみんなにつけられてしまっているのでは、遅れを取ってしまう不安。(高2・宮城県)
- ・学校が開始してからの勉強スピード。また、今年に控えている大学受験への影響。(高2・東京都)
- ・学校が休みになったことは集団感染を避けるためのいい判断だと思うが、外出自粛ムードである生徒が自宅でも何か学びたくなるきっかけを学校側は作る方がいいのではと思う。(高3・東京都)
- ・通っている学校によって課題や宿題の量がバラバラで義務教育の中学校や小学校などでも教育内容に差が出てしまうこと。(高3・宮城県)
- ・受験。学校で自習したい。切実に勉強する環境が欲しい。学校に行きたい。授業を受けたい。(高3・北海道)

◆ 保護者の生活状況に対するもの 31 件 (2.2%)

- ・親が職場で新型コロナウイルスをもらわないか心配。(小1・青森県)
- ・お母さんが仕事休めないからつまらない。(小2・宮城県)
- ・僕たちは休みでも、母や父が仕事してる。(小2・愛知県)
- ・家で家族とぼーとしてる。じぶんもいらいら、家族とかママも仕事休みだからイライラしてる。お腹がすいてる。(小4・東京都)
- ・お父さんもお母さんも仕事だから寂しくなる。(小6・大阪府)
- ・パパのお仕事が少なくなったこと。(小6・宮城県)
- ・パパは平日おしごとなのに家にいるのに、あそんでくれない。(小1・神奈川県)
- ・ママがわる口ゆってこまる。(ストレスがたまる。)(小3・福島県)
- ・コロナで親が家にいて怒られることがおおい。(中2・東京都)
- ・母に持病があるので学校が始まってしまうことに不安がある。(中3・神奈川県)
- ・保護者の体調が悪くなり仕事を休みがち。校納金の納付が心配。(高1・宮城県)

◆ 体調やり患、心の変化、感染拡大への心配・懸念 227件 (16.0%)

- ・夏になったらコロナウイルスがひろまらないようになったらいいなと思います。(小2・埼玉県)
- ・コロナになったら死ぬのが怖い。(小2・愛知県)
- ・コロナウイルスがきになって外に出る事が怖い。(小2・宮崎県)
- ・ストレスがたまってすごくたいへんなことになるんです。(小3・福島県)
- ・みんなマスクをしてない。(小3・佐賀県)
- ・コロナウイルスにかかって死んじゃう事がこわいです。日本が大変な事になっていてこわいです。(小4・神奈川県)
- ・これから、社会がどうなるのか。(小4・埼玉県)
- ・もし学校の人が1人でも感染したらどうなるのか。(小5・兵庫県)
- ・笑う事が減った。(小5・兵庫県)
- ・あえないともだちがコロナウイルスにかからないかしんばい。(中1・福島県)
- ・もともと心配性なのもあって、病気と死への恐怖を感じています。(中2・千葉県)
- ・対話の機会が少なくなり、感情が不安定。(中3・埼玉県)
- ・休みの間行動を自粛せずに遊んでいる友達に休み明けに会うのが怖いです。(中3・大阪府)
- ・コロナの臨時休校が終わった後、学校に行くためにいつも使っている電車に乗るのが怖い。あんな密閉された空間だともし誰かが感染していたら、自分も感染する確率が高くなる。(高1・兵庫県)
- ・いつになったらコロナがおさまるのか。(高1・福岡県)
- ・悪夢を見るようになった。(高1・東京都)
- ・テレビとか国とかに、色々言われてるけど、外に出れば人はいるしあせってないから大丈夫か心配。(高2・新潟県)
- ・知り合いがコロナにかかってないか、心配。(高3・神奈川県)

◆ マスク不足 90件 (6.3%)

- ・パパがふだん、マスクしてなくて、きゅうに会社でしないといけないことになって、ママがパパのマスクがなくてこまっている。(小3・佐賀県)
- ・マスクがみんなかっちゃってなくなっちゃうからこまっています。けどもっとこまっている人がいるのかな。(小3・福島県)
- ・マスクが手に入らなくて、花粉症もひどいから困る。(小5・東京都)
- ・小さい子やお年寄りのマスクが無いのが心配です。(高2・北海道)
- ・アルコール消毒、マスクなどが不足し、街や外を出歩くのが不安。(高3・福島県)

◆ その他困りごと・心配なこと

- ・コロナウイルスの中でデマがあるのでちゅういをしてほしいと思う。(小2・福島県)
- ・思春期を迎えている小中高生達が病んだり、引きこもりになってしまうという恐れ。自分の家庭内では無いが、その他の家庭で虐待や、食の心配。(中1・東京都)
- ・ギガがなくなりそう。(高1・宮城県)
- ・スマホをやっていないので自由にネットに繋がれない。(中2・神奈川県)
- ・コロナもそうだが日本の景気が非常に心配だ。今まで当たり前のように買ってこれた物が買えなくなったり給料が下がったりすることで生活に悪影響を及ぼすことを懸念している。(中3・埼玉県)
- ・お金がない。(高3・熊本県)
- ・小学生などは学校がなくなった事で給食が無くなり、栄養摂取状態の不良が心配である。(中略) 栄養補給として大きな役割を担っていた学校給食による食事が無くなったことは成長期真っ只中の子供達の成長に少なからず影響が出るような気がする。(学年・都道府県無回答)

上記のセーブ・ザ・チルドレンの調査結果からコロナ禍で子どもたちが困っていること・心配なこと・気になっていることでは、日常生活が送れていない・外出できないが31.4%と最も多く、次に20.5%で体調や心の変化が多かった。その次に、感染に対する心配や懸念が16.0%、勉強や学校に関するものが15.7%と多かった。これらの結果から、自宅で過ごす時間が長期化したことで変わらない環境に心身共にストレスを感じていることが分かった。感染への恐怖、家での生活、将来の不安などが浮き彫りになった。また年代別に比較すると、小学生と中学生は日常生活が送れていないことへの不満が最も多かった。一方で高校生は、日常生活が送れていないことと勉強や学校に関するものが最も多かった。やはり、勉強への不安は年齢が上がるにつれて高まっていることが分かる。

また、学校が休校中の子どもたちのほとんどがネガティブな気持ちになっていることが分かった。それだけ子どもたちにとって学校はとても重要な存在であると感じた。お別れ会や部活など、本来ならば開催されていたイベントが中止になってしまった悲しみは大きい。休校中の子どもたちの悩みは、家族・友人との関係や体力の低下、精神的ストレスなど様々だった。ほとんどが自分自身の悩みを抱えていた。

4.3 登校に対する負担・公共施設の利用制限の問題

中日新聞の記事から、コロナ禍の子どもたちに関する問題に3つ注目した。

まず1つ目の問題は、休校が終わってから登校することへの負担⁸である。約3か月間、全国の学校が休みになった。ほとんどの学校が6月から再開したが、学校へ行くのが辛いと感じている子どもたちも少なくない。自宅で過ごしていた子どもたちが、6月からすぐに学校の環境に慣れるのは難しいと思われる。ましてや、新しい先生や友だちとまだ親しくなっていない状況の中では心の負担が大きいだろう。例年、長期休みが終わった9月に10代の自殺者数が多いことが今回の休校明けでも懸念されていた。周りの大人が子どもたちをいつも以上に気にかけてあげることが重要だと考えられる。

2つ目の問題は1つ目の問題と関連する。それは、2019年度の不登校・いじめの件数が過去最多⁹であったことだ。文部科学省の2019年度問題行動・不登校調査で、病気や経済的状況以外の理由で年30日以上登校していない小中学生が18万1272人と過去最多になったことが明らかになった。7年連続で増加している。不登校の要因の内訳では、「本人の不安や無気力」が39.9%と最も多く、「いじめを除く友人関係」が15.1%、「親子の関わり方」が10.2%と続いた。また、いじめも深刻化している。全国の国公私立の小中高校と特別支援学校が2019年度に認知したいじめは61万2,496件で、過去最多を更新したことが文部科学省の同調査で明らかになった。心身に深刻な被害が生じる「重大事態」も2割増加した。いじめを1件でも確認した学校は82.6%に上った。文部科学省は「教員が積極的にいじめを発見し、早期に介入する方針が定着した」と肯定的に評価している。一方で、重大事態は「潜在的な被害が表われた」とみて、相談体制の強化などの対策を進めている。いじめの具体的な内容（複数回答）は「冷やかしや悪口」が61.9%と最も多かった。SNSでの誹謗中傷は2.9%だったが、高校では18.7%で2番目に多かった。さらに、新型コロナウイルスがいじめにつながるなどの危惧も高まっている。長期間休んだ子どもを「コロナに感染した」と決めつけたり、親が医療従事者であることをからかったりすることも発生している。また、親の雇用環境が悪化することで子どもがストレスを抱え、はけ口として友達をいじめる恐れもある。そのような懸念から、学校は保護者や地域住民と積極的に情報交換し、子どもの変化に敏感になるよう教員に指示している。より丁寧な見守りが重要視されている。新型コロナウイルスの影響が、2020年度の不登校・いじめの件数にどのような影響を与えているのか注視する必要がある。

3つ目の問題は、図書館の利用制限¹⁰である。新型コロナウイルスの感染対策により、各地の公共図書館で自習室が使えなくなった。休校の影響で今年の夏休みは短縮され、8月の下旬頃から2学期が始まる場所が多い。そのため、受験生や宿題の追い込みをする中高生たちは、無料で勉強できる場所の確保に苦慮している。休校中に子どもが自習できる場所には、学習塾や都市部の自習室などの選択肢もある。しかし、料金が月1万5000円以上かかるところもあり、誰もが利用することは難しい。自宅などで勉強できる子どもと図書館のような自宅以外の居場所を必要とする子どもとの間で、学習環境の格差が広がりつつある。図書館などの公共施設の利用制限が緩和されつつある現在も、ソーシャルディスタンスを保つため、通常よりも座席数が減らされるなどの対策が取られている。感染防止の観点から必

⁸ 中日新聞、2020年6月1日。

⁹ 同上、2020年10月23日。

¹⁰ 同上、2020年8月14日。

要な取り組みではあるが、受験を控える子どもたちにとっては厳しい環境が続いている。

5. 今できる支援

コロナ禍の子どもたちの声から、特に気になった点は友だちに会えないことや長く自宅で過ごすことによる精神的なストレス、生活リズムのみだれや運動不足による体の不調、休校による学習の遅れである。表に出る問題だけではなく、変化に気づきにくい心の問題もある。コロナ禍で不登校やいじめの問題がどのように影響しているか懸念されている。彼らをどのように支えていくべきか考える必要がある。居場所の面では、無料で使っていた図書館や自習スペースが新型コロナウイルスの影響で使用できない・しにくい問題も生じた。これらのことから、話を聞いてくれる大人の存在、そして勉強をするスペースや自由に過ごせる居場所の提供も必要である。

これらの問題をどうすれば改善できるか、子ども食堂と学習支援にできることを5つ考察した。ちなみに以下で紹介する1~3は主に子ども食堂に、4は主に学習支援に、5は子ども食堂と学習支援の両方に当てはまると考えられる。また、自身のボランティア活動の記録をもとに考察している。

5.1 バランスの良い食事

世帯収入別にみた子どもの朝食摂取率の研究¹¹によると、朝食を毎日食べていない割合は世帯収入が少ない家庭の方が多く家庭に比べて学校がある日では約2倍、ない日では約1.5倍多い。学校がある日と休みの日で比較すると、世帯収入の多寡を問わず、学校が休みの日の方が朝食の摂取量が約2倍悪いことが分かっている。意外にも、世帯収入の多い家庭であっても学校が休みの日は朝食を食べない割合が増えている。

また食べているものは、世帯収入が少ない家庭の方が加工食品やインスタント麺を食べることが多く、野菜を食べる機会が少ない。経済的な理由は親が調理する時間や余裕を奪う要因の1つになっている。収入が少ない家庭は多い家庭に比べ、タンパク質やビタミン、ミネラルなど成長に必要な栄養素が不足している。一方、ご飯やパン、麺などの調理が簡単な炭水化物の摂取が多いことが分かっている。バランスの良い食事を取ることは、育ち盛りの子どもたちにとってとても重要なことである。新型コロナウイルスの影響で学校が休みになり、給食も無くなった。子どもたちは自宅で3食取らなければいけなくなった。しかし、家庭によって食事に偏りが出ていると思われる。偏った食生活が続くと、体重の減少や大人になってから生活習慣病を罹患するリスクがある。そのため、子ども食堂でのバランスの良い食事の提供がより一層重要であると考えた。

私が約2年間お手伝いさせていただいた、名古屋市中区の子ども食堂「なかぶん」の記録をもとにバランスの良い食事についてまとめた。

◆ 子ども食堂 なかぶん

場所：中文化センター 名古屋市中区新栄 3-32-13

¹¹ 村山伸子（新潟県立大学教授・公衆栄養学），2018年，あいち子ども食堂ネットワーク編『子どもたちを孤立から救おう！子ども食堂の挑戦』。

日時：毎月第3土曜日 11時半から13時半（フードパントリーは13時から14時）

参加費：子ども100円（幼児は無料）、大人300円

代表：平野由紀子さん（スタッフ数：13人程）

表2 過去2年間のなかぶんの記録

日付	人数	メニュー	催し物
2019年4月20日	58人 (スタッフ込み)	カレーライス、マカロニサラダ、苺	じゃんけんゲーム お菓子が景品
2019年5月18日	50人 (スタッフ込み)	肉どんぶり、春雨スープ、しゅうまい、パイナップル、プリン	ボランティアの方による演奏会
2019年6月15日	72人 (スタッフ込み)	唐揚げ、グリーンサラダ、味噌汁、さくらんぼ	手品
2019年7月20日	65人 (スタッフ込み)	煮込みハンバーグ、ポテトサラダ、卵のコーンスープ、スイカ	シャボン玉遊び
2019年8月17日	子ども・大人48人	ベーコンの野菜カレー、わかめサラダ、果物	かき氷作り
2019年9月21日	子ども・大人50人程	照り焼きチキン、ポトフ、梨	バルーン遊び
2019年10月19日	子ども・大人40人程	麻婆豆腐、中華スープ、シューマイ、巨峰	ボランティアの方による演奏会
2019年11月16日	子ども20人 大人35人	五目ご飯、すまし汁、ちくわの磯辺揚げ、大学芋、リンゴ	手品
2019年12月21日	子ども30人 大人39人	ケチャップライス、クリームシチュー	トライフルケーキ
2020年1月18日	子ども・大人60人程	ビビンバ、ニラと豆腐のスープ、果物	折り紙
新型コロナウイルス感染拡大のため中止			
2020年7月18日	子ども17人 大人17人	チキンカレー、わかめサラダ、さくらんぼ	シャボン玉遊び
新型コロナウイルス感染拡大のため再び中止			
2020年11月21日 (フードパントリー)	34世帯	お米、パン、お菓子、ジュースなどの配布	

「なかぶん」では、子どもだけでも来られる気軽な食堂を目指している。子どもたちにごはんを食べてもらうことが本来の目的であるため、大人だけの利用は断っている。おいしい

ごはんを提供するほかに、レクリエーションにも力を入れている。

ごはんは小学校の給食を作っているスタッフの方が作られているので、子どもも大人も食べやすい味と量である。栄養バランスも考えられている。使った食材の産地を載せて、情報を発信している。また、野菜の栄養素の豆知識などを掲載したチラシも配布している。食材の一部は近くにある味仙で安く仕入れ、名東ロータリークラブや久遠寺さんからはおやつを頂いている。私は初めてこちらのご飯を頂いたとき、おいしさと同時に懐かしさも感じた。なぜなら、小学校の給食と同じようなメニューと味であったからである。また、旬の野菜や果物、大学芋やかき氷などの季節のメニューもあり、普段自宅では味わえないおいしさを感じた。自宅でかき氷やケーキを作ることは手間のかかることであるが、子ども食堂で体験できることで子どもも大人も楽しむことができる。

新型コロナウイルスの影響により 2020 年 3 月から 6 月まで休止していたが、7 月は一時的に再開することができた。休止中も Facebook で情報を発信し続けており、利用者は再開の目途などについて十分な情報を得ることができた。それでも平野さんは再開して人数が減ることを懸念し、トワイライトスクールに出向いて子どもを迎えに来る保護者に直接宣伝された。一時的に再開した 7 月の開催時は、密を避けるため 3 部屋に分かれて食事をしてもらった。また、ひとつの部屋に最大 16 名、スタッフは 6 名までと人数制限を設けていた。来客者の手やスリッパ、テーブルの消毒を徹底していた。この日のために中文化センターの係長さんとコロナの対策について念入りに話し合われたようだ。少人数ではあったが、子どもたちが来てくれたことに喜びを感じられていた。しかし感染拡大に伴い、8 月以降再び開催を見送った。

5.2 物資支援

コロナ禍の子どもたちの声の中で、マスクやアルコール消毒液不足の悩みも多くあった。買いだめをする人もいる影響で、必要な人に届かないという問題が生じた。現在、マスク不足は解消されたが、いつまた不足するか分からない。生活物資が不足したとき子どもたちに安定的に供給するために、子ども食堂で支援ができないかと考えた。私が考えた方法としては、生活物資が余っている方から提供してもらおう、または今回のような緊急事態のときに国や自治体から優先的に供給してもらおう方法である。食料やお菓子などの物資は、前者の方法が有効かもしれない。実際に子ども食堂「なかぶん」では、名東ロータリークラブや新栄の久遠寺さんから頂いた支援物資を個別に分けて、子ども食堂当日に来たお母さんや子どもたちへ渡している。中身はお米やお菓子など豊富である。お母さんたちがとても喜んでいたので印象に残っている。また子どもたちにおもちゃをプレゼントするなど子どもも大人も嬉しい取り組みがなされている。

「なかぶん」は、11 月から食堂からフードパントリーにかたちを変えて 4 か月ぶりに開催した。フードパントリーを行うのは初めての取り組みであった。最終的に、残った分は近隣にある小学校のトワイライトスクールに譲渡した。来月以降はチラシの配布などをして宣伝をしっかりと話されていた。次回は、パンやお米の他に揚げたての唐揚げも一緒に配布したい話されていた。子ども食堂での開催は未だ開催できないが、フードパントリーのかたちで地域の子どものために支援している。

このように子ども食堂を通じて必要とする人に必要なモノを提供できるシステムが充実

してあってほしい。参加している子は小学生の子どもたちが多いため、食料だけではなくノートや鉛筆などの文房具も喜ばれるだろう。子ども食堂に余っている物資を提供することは誰もが参加できる取り組みの1つである。余っているモノを必要としている人へ提供することで、ごみの量も減らすことができる。人にも環境にも優しい取り組みになると考えた。

5.3 遊び・体験

新型コロナウイルスの影響で、子どもたちは学校に行けなくなった。学校での授業が受けられないだけでなく、運動場で遊ぶこともできなくなった。また、公園の遊具が使用禁止になったり、制限があったりなど子どもたちが遊ぶところも奪われてしまった。そのため、家でテレビやスマートフォンの視聴、ゲームなどをして過ごす子どもたちが増えた。特に変化がない生活が長く続いたことで、多くの子どもたちはストレスを感じていた。また、精神的なストレスに加え、定期的に運動ができないことによる体力の低下も問題だ。そのため、子ども食堂でのレクリエーションの充実が必要であると考えた。

子ども食堂「なかぶん」では、毎月レクリエーションが行われている（表2参照）。レクリエーションは担当のスタッフの方が、子どもたちが喜ぶことを企画して毎月行っている。内容は手品、シャボン玉遊び、折り紙、お菓子作りなど様々ある。お菓子作りは8月にはかき氷、12月にはカップケーキ作りが行われた。シャボン玉遊びは近隣の公園で楽しんだ。久しぶりにシャボン玉をする子どももいて、普段あまりやれないことができるのはとても良いと感じた。また、お母さんたちも子どもたちのはしゃぐ姿を嬉しそうに見ていたのが印象に残っている。毎月何をやるのかははっきり決まっておき、企画・運営がしっかりされている。

普段、家ではなかなかできないことが子ども食堂を通じて体験できることはとても素晴らしい取り組みである。子どもだけではなく、一緒に来ているお父さんやお母さんも楽しむことができる。今後は、子どもたちの運動不足を解消するためにも公園で遊べるレクリエーションが増えるとより充実した支援に繋がると考えられる。

5.4 無料の学習支援

現在、名古屋市内では13区34か所で学習支援が実施されている。運営はNPO 特定非営利活動法人教育支援協会東海がしている。名古屋市のひとり親家庭や生活保護受給家庭の中学生を対象としている。主な目的は居場所づくり、高校進学、社会性の育成、養育支援の4つである。

新型コロナウイルスの影響による3月から5月までの休校に伴い、学習支援も同期間休止となった。また、この学習支援では毎年3回（8月、12月、3月）にお楽しみ会という催し物がある。それは、生徒とサポーターの交流を図ることを目的としている。協会からの予算内で、ピザやドーナツなどの軽食を食べ、クイズやなんでもバスケットなどのレクリエーションをして楽しめるイベントである。今年の3月も開催される予定だったが、開催することはできなかった。

私はこの学習支援に大学2年生の夏ごろから関わってきた。子ども食堂に携わった際に、学習支援の取り組みを知り興味を持ったことがきっかけだ。勉強を教えることに不安はあった。しかし、ここでは単に勉強を教えるだけではなく、生徒一人ひとりに寄り添うことも

重視している。そのため、私でも何か力になれるかもしれないと思い、サポーターになった。今ではとてもやりがいを感じている。生徒たちの学校や家での話を聞いたり、逆に私自身の中学校時代の勉強方法や学校生活について話したりできることがとても楽しい。学習支援は生徒たちがやりたいことに取り組み、それをサポートできる点が学習塾とは異なる。運営責任者や他のサポーターの方と生徒の情報交換を毎月行っているので相談しやすい環境がある。「傾聴」を重視している学習支援は誰もが力になれる場であると感じる。

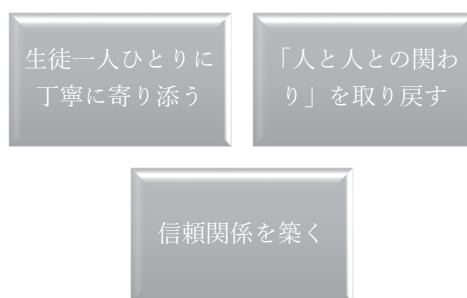


図3 学習支援の目的

表3 学習支援の参加記録

1. 名古屋市守山区の学習支援
参加日時：2020年7月14日 18時から20時 場所：ユートピア第二つくも（守山区） 回数：週に2回 火曜日と金曜日 人数：生徒7人、サポーター4人（大学生3人）
2. 当日の様子
会場であるユートピア第二つくもは高齢者施設であるため、以前からマスク着用は必須だった。入り口に検温の機械があり、各自そこで体温を測定する。施設の空いている部屋をひとつ借りて実施している。 通常、サポーター1人につき2人の生徒を見る。私がこの日担当したのは、中学1年生の男子生徒A君と中学2年生の女子生徒Bさんだ。A君は理科と社会に取り組んだ。教材を持っていなかったため、会場で印刷できる学習プリントをやってもらった。一方Bさんは、翌日が定期試験ということでテスト勉強に励んでいた。学校で提出する理科や社会のカラープリントを仕上げ、分からないところをいくつか質問してくれた。終了前に学習記録とサポーターのコメントを毎回記録している。この日の2人のコメントには、「復習ができて良かった」、「テスト勉強が進んだ」とあった。2人ともやるべきことにしっかり取り組めていたので良かった。

5.5 気軽に話せる大人の存在・居場所の提供

下記の図4・図5の横棒グラフは、2019年の社会調査実習の調査で愛知県内53か所の子ども食堂の運営者の方にご協力頂いたアンケート結果の一部である。

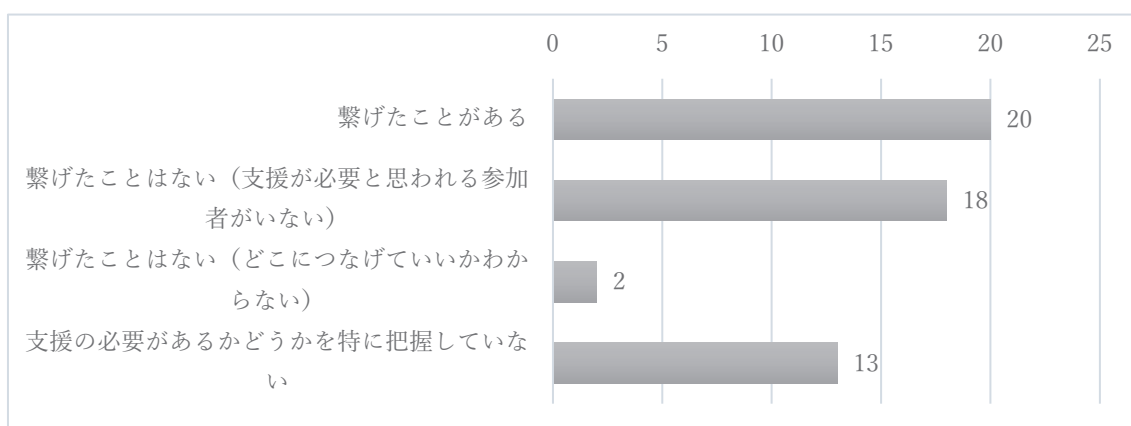


図4 参加者の様子を見て、他の支援機関に繋がった経験（N=53）

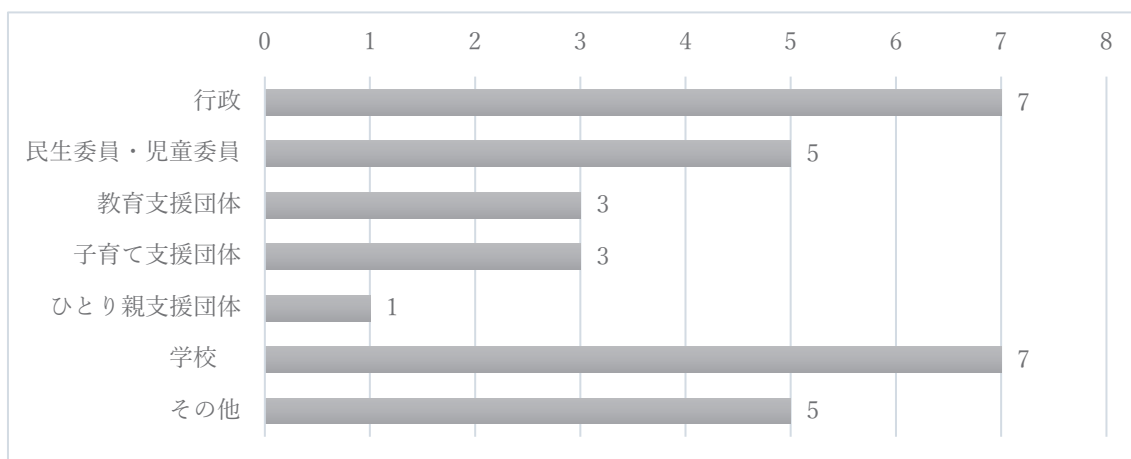


図5 どういった機関に繋がっているか（N=31、複数回答）

図4の参加者の様子を見て、他の支援機関に繋がった経験を表した棒グラフから、参加者が他の機関に繋がったことがある子ども食堂は53か所ある中で20か所存在した。全体の約3割程であった。一方、どこに繋がっていいかわからず、他の機関に繋がったことがない子ども食堂が2か所あった。支援が必要と思われる参加者がいない・支援を必要としているかどうか把握しておらず他機関に繋がっていない数は合計31か所に上った。これは全体の約5割に相当する。誰もが来られる点が子ども食堂の魅力のひとつであるが、支援やサービスを知らないお父さんやお母さんは多いので子ども食堂を通じて情報を発信して頂きたい。

また、図5の他機関へ繋がった経験のある子ども食堂はどういった機関に繋がっているかを表した棒グラフから、子ども食堂が繋がった機関として最も多かったのは行政・学校であった。次いで、民生委員・児童委員が多かった。その次に多かったのが教育支援団体・子育て支援団体であった。ひとり親支援団体に繋がった子ども食堂は最も少ない結果になった。ひとり親世帯が実際にどのくらい来られているかは分からない。子ども食堂は友だちと一緒に来ている子どももいるが、多くはお父さんやお母さんと来ている。だからこそ、子どもだけではなく、親への子育てに関する支援が必要であると考えられる。

以上のことをふまえ、子ども食堂と学習支援にできる子どもと親への支援を考察した（表

4)。子ども食堂と学習支援にできる主な支援は、他機関への紹介・情報提供である。またその他に、子ども食堂では食に関する知識を教えたり、学習支援では子どもに進路指導を行ったりすることが可能だと考えた。すでに実施されているところもあるが、まだ多くはないので今後これらの支援が広がっていくことを願う。

表4 子ども食堂・学習支援ができる子どもと親への他機関への支援

子どもへの支援	親への支援
<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関の情報提供 ・相談しやすい環境の提供 ・相談できる大人の存在 ・電話相談の紹介 ・学習、進学指導 ・食の提供、情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関の情報提供 ・保育施設、学童保育の情報提供 ・自治体の相談窓口の紹介 ・母子生活支援施設の紹介 ・育児相談 ・職業紹介

6. 今後の子どもたちへの支援の在り方

新型コロナウイルスの影響で私たちの生活は大きく変わった。ウイルスとの共存が当たり前となった今日、子どもたちへの支援はどのように継続していくか考察してきた。子ども食堂や学習支援は、子どもたちにとって心が休まる場所であってほしい。友だちや先生、家族に話しづらいこと、寂しいと感じたときに気軽にいくことができる居場所であることが望ましいと感じる。いわば、日常生活の逃げ道でもあるといえる。逃げ道というとマイナスに思われてしまうかもしれないが、誰もが必要とする大切なものだと思う。逃げ道があるから頑張ってみよう、挑戦してみようと前向きになれるのではないかと私は考える。子ども食堂や学習支援は、頑張る子どもたちを応援してくれる存在であるとボランティアを経験して感じた。

他にも子ども食堂のボランティアをしてきて感じたことがある。それは、多くの子ども食堂は月に1回程度しか開催されていないが、その1回は様々な情報が得られる貴重な時間であることだ。子どもたちと食事を通じて会話をし、1か月前と比べて漢字が読めたり、計算が早くなっていたり、あるいは身長が伸びていたりなど様々な成長を感じることができる。だからこそ、子ども食堂というひとつのコミュニティの場と継続的につながりがあることは重要なことである。

授業、仕事、娯楽など様々なことがリモートで行われる世の中に変った。リモートは効率やコスト面で優れていると感じた一方で、対面での必要性を感じるものもいくつかある。それは“人”を必要としている方への支援である。本稿で取り上げた子どもへの支援を始め、ご高齢の方や障がいを持っていて日常生活が不自由な方など多くいる。このような方たちには間接的ではなく、直接的な支援が必要である。対面での最大のメリットは、人の温かさを感じられることだと私は思う。人の声や表情、アイコンタクトなど小さなことがコミュニケーションとなる。一方、非対面ではそういったことでコミュニケーションを取ることは難しい。相手の温かさや優しさは対面だからこそ感じられるものである。緊急性・必要性に応じて、対面での支援も継続して行ってもらいたい。声をあげられない小さな子どもや父親や

母親の孤立を防がなければいけない。これまでの子ども食堂の開催が難しくても、フードパントリーやお弁当の配布など子ども食堂の運営者の方々はなんとかして支援を継続しようとご尽力されている。これまで以上に学校や地域住民、行政と協力していくことが重要である。そして今こそ、親や学校の先生だけではなく、地域の人やボランティアの学生など様々な大人の力が必要とされている。

最後に、子ども食堂や学習支援はアルコール消毒やマスクの着用、体温管理などの感染対策を徹底して実施しているので、安心して子どもたちに来てもらいたい。本稿を読まれた方がコロナ禍での子ども食堂と学習支援の必要性を感じ、今後の支援の一助に繋がれば幸いである。

参考文献・資料

阿部彩, 2017年, 『子どもの貧困Ⅱ—解決策を考える』岩波書店.

落合恵美子, 2020年, 『<新型コロナウィルスとジェンダー>「家にいる」のはタダじゃない—家族や身近な人々が担う「ケア」の可視化と支援』.

中京大学 成元哲研究室, 2020年, 『2019年度社会調査実習報告書 子ども食堂という名の居場所』アンケート集計結果.

子ども食堂なかぶん, 2020年, 「子ども食堂なかぶん Facebook」

(<https://www.facebook.com/>, 2020年11月30日にアクセス).

あいち子ども食堂ネットワーク, 2020年, 「あいち子ども食堂ネットワーク」

(<https://aichi-children-dining-network.jimdofree.com/>, 2020年11月30日にアクセス).

謝辞

本稿の調査及び執筆にあたり、ご協力いただいた子ども食堂、そして学習支援の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。